

第 60 回 企業活性化研究分科会・議事録

< 第六十回 2013 年 8 月 24 日 (土) 時間 : 13 : 30 ~ 17 : 00 於 : 専修大学 (神田校舎) >

参加者 : 石川、井端、大野、小林、杉本、高市、辻、夏目、浜田、星野、宮川、山本
(12 名)

1. テーマ : 実務家にとっての情報収集と論文の書き方

・ 講演者 : 辻純一郎 ・ 配付資料 : 25 枚

・ 講演内容の要旨

本講演は、辻純一郎 (危機管理システム研究学会 副会長) 氏から各会員の知見を広めるために、実務家にとって効率的な研究の進め方と論文の書き方について、4 つのポイントを提示したものである。

第一に、情報収集のポイントについて顕示している。有益な情報収集を行うためには、目的意識とあらゆる情報に接す機会をもち、社内外からの情報収集の仕組みを整えるポイントを示した。また収集した情報には生情報と加工情報があり、それぞれ特質が異なるため、特質を意識し、見方を変えて情報の中のヒントを探し出すことである。加えて、資料の量と質については、質重視で、短時間で資料収集と分類をおこなうことを示している。

第二に、文章の書き方について論及している。まず論文などの文書を書くときは、自分のスタンスを決め、伝えたいコンセプトの明確化をしてから、内容の整理をおこなったうえで書き始めること、次に、主語と述語の一致、余計な修飾語の「カンナかけ」をして、文書の精緻化をはかることで、分かりやすい文書にする。最後に、内容の論理性、内容の正確性、引用文献の厳選の 3 つを検証することを求めている。

第三に、研究テーマの選定においては、切り口を考え、関心を持ったテーマについて先行研究を調査し、議論の余地を探ることである。研究テーマの議論方法には演繹法と帰納法があり、研究テーマにより選択および検討することである。帰納法の場合には、注釈を用いて、自己の論理の客観性を持たせることが大切であるとした。

第四に、研究の進め方については、仕事も研究も進め方は同じであり、問題解決の巧拙には段取りを考慮すべきである。効率的な研究の進め方には、状況把握、原因究明、選択と決定、リスクへの対処の各段取りをつけ取り組むことをポイントとして取り上げた。

これら 4 つのポイントを踏まえて、研究に取り組み、実行することで、効率的な研究を行うことが可能となる。最後に、論文、レポートなどは、自ら書いて知識不足を知り、その不足を補充して論拠を深め、よい論文を書き上げていくこととした。

(文責 : 夏目拓哉)